別　紙　２

奈良県みんなでつくる渋滞解消プラン
概　　要　　版

１．現状と課題

１）渋滞の発生状況

【現状】・ラッシュ時に大和平野地域を中心に渋滞が発生。
・全国有数の観光地であることから、観光地とその周辺を中心に交通渋滞が発生。
・道路利用者へのアンケートでは、渋滞の指摘を多数受けた。
【課題】・計画策定過程の「見える化」が必要。
・抜本的な対策として、幹線道路ネットワーク形成などの本格的な対策への取り組みが引き続き必要。
・効率的・効果的な渋滞対策が必要。

２）これまでの渋滞対策と課題

【現状】・交差点に着目した渋滞のデータを収集してきた。
・その他にも路線全体の渋滞により交差点が特定できない箇所や地域の円滑な交通に支障が生じている踏切が２２箇所存在。
【課題】・交差点以外の区間にも着目した渋滞箇所の選定が必要。

【現状】・これまでも渋滞に関する計画を策定し、対策を実施。
・平成１５年度に策定した「奈良県渋滞解消推進計画」では、バイパス整備等でのハード対策が１３７件中１２１件。
・大規模なバイパス整備での必要事業費は平均１３０億円/対策、対策完了までに１０年を超えるなど、多額の投資と相当の期間が必要。
【課題】・効果発現までの期間やコスト意識を重視した「速効対策」の強化が必要。

【現状】・これまでも観光渋滞に対しては春秋のシーズンにおけるパーク＆ライドなどを取り組んできたが、依然として渋滞は発生。
【課題】・「利用者に協力を求めるソフト対策」の充実が必要。

【現状】・ＥＴＣをはじめ、ＩＴＳによる多様な渋滞緩和方策が実現しつつある状況。
【課題】・最先端技術を活用した取り組みが必要。

２．対策の基本的な考え方

客観的なデータに基づいて抽出した渋滞が著しい箇所の公表や、道路利用者へのアンケートの実施など計画の策定過程を「見える化」する。併せて、幹線道路ネットワークの整備・改善が間近な区間では、その効果を調査の上対策を検討するが、それ以外の箇所は、コストや早期事業効果発現の観点をより重視した「速効対策・ソフト対策」に「選択と集中」で取り組む。

３．具体的な取り組み

１）客観的データを用いた渋滞箇所の「見える化」

・緊急性の高い所への重点的な対策を実施。
・客観的データに基づき、「渋滞が著しい箇所（原案）」を抽出。

２）県民とのコミュニケーションによる計画策定の「見える化」

①道路利用者など県民へのアンケートの実施
・道路利用者へのアンケートを実施し、県民の意見を反映。

②対策の検討過程の公表
・対策の検討過程については、カルテを作成し、「見える化」を実施。

３）「選択と集中」による対策の実施

①「渋滞が著しい箇所」への重点的な取り組み
・「渋滞が著しい箇所」について重点的に渋滞対策を実施。
・幹線道路ネットワークの形成が間近なものはその供用後の交通状況を調査して対応を判断。
・それ以外の箇所は、「速効対策」や「利用者に協力を求めるソフト対策」を重点的に実施。
②「速効対策」の強化
・道路の使い方の工夫による対策を強化。
③「利用者に協力を求めるソフト対策」の充実
・平城遷都１３００年祭において、モデル的にソフト対策を実施。
④「交通安全対策プラン」との連携
・交通事故対策と十分な連携を図りつつ対策を実施。

４）最先端技術の活用

①ＥＴＣ技術を活用した取り組みを推進
・ＥＴＣの機能を応用した、よりきめ細やかな情報提供などによるピークシフト。
②ＩＴ技術などを活用した情報提供による渋滞対策
・渋滞情報や公共交通の利便性向上を内容としたホームページ作成。

５）渋滞状況把握・対策検討のための体制の強化及びノウハウの蓄積

①渋滞状況把握・対策検討に向けた体制の強化
・行政以外の機関との連携。
②ノウハウ蓄積のための検討会の実施
・国内外の事例を収集し、これらを題材とした検討会を実施。

６）フォローアップによるＰＤＣＡの実施

・ＰＤＣＡサイクルを活用した取り組みにより、継続的な改善を実施。